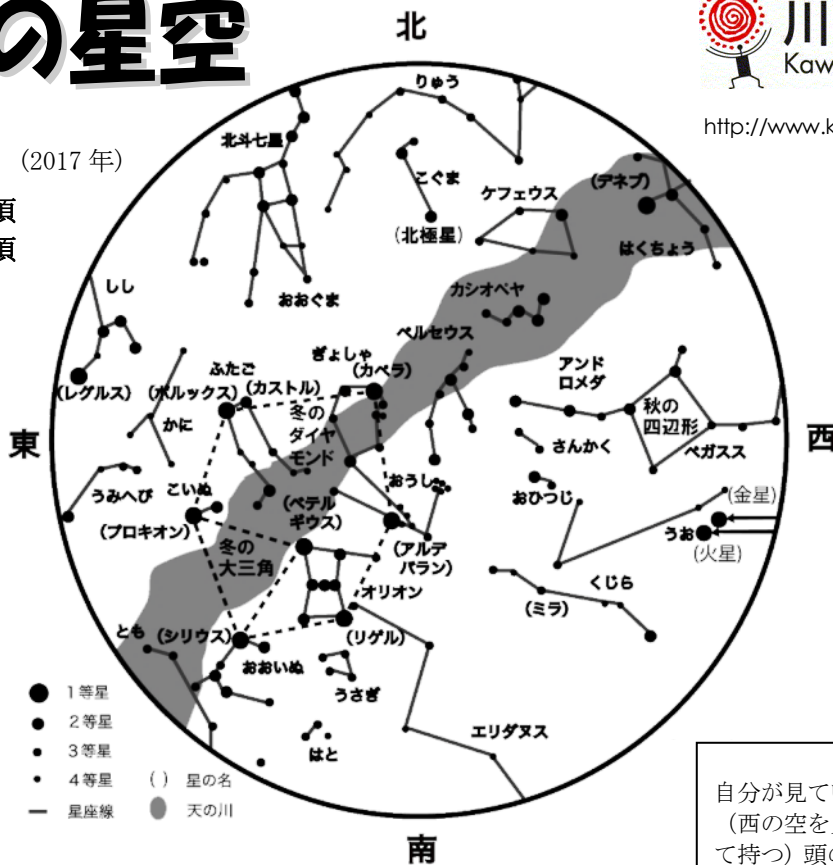


今月の星空

1月 (2017年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方向を下にして、
(西の空を見るときは西を下にして持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ● 上弦 6 日、○ 満月 12 日、◐ 下弦 20 日、● 新月 28 日

惑星情報
水星 明け方 南東 (いて座 4 → 0 等級)
金星 夕方 南西 (やぎ座 → みずがめ座 → うお座 -4 → -5 等級)
火星 夕方 南西 (みずがめ座 → うお座 1 等級)
木星 明け方 南 (おとめ座 -2 等級)
土星 明け方 南東 (へびつかい座 0 等級)

☆ 金星が東方最大離角 (12 日)

12 日に金星が太陽から東側に最も離れて見える「東方最大離角」となり、夕方の西の空で見られます。「東方最大離角」のころは、高度が高く見つけやすくなるので、ぜひ観察してみてください。また、右の図のように 3 月下旬ころには太陽と同じ方向に位置するため、見るのが難しくなります。そして 4 月中旬ころからは明け方の東の空で見られるようになります。

金星は約 10 か月ごとに夕方に見られるときと明け方に見られるときが入れ替わります。

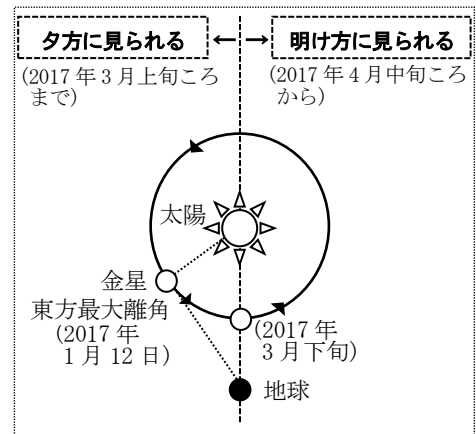


図 太陽・金星・地球の位置関係と見られる時間帯

☆ オリオン座の 1 等星ベテルギウスとリゲル

東から南の空にはオリオン座など冬の星座が見られるようになります。

オリオン座には赤色のベテルギウスと白色のリゲルという 2 つの 1 等星があります。昔の日本人は、それぞれを平家の赤旗、源氏の白旗に見立て、「平家星」、「源氏星」と呼んでいました。

この色の違いは表面温度を表していて、赤いベテルギウスは温度が低く (約 3,500 度)、白いリゲルは温度が高い (約 12,000 度) 星です。

ベテルギウスは間もなく (今から 100 万年以内)、超新星爆発と呼ばれる大爆発を起こし、一生を終えると考えられています。この爆発が起こると、満月ほどの明るさになり、昼間でも見られると予想されています。